

学校法人城西大学 国際学術文化振興センター

JOSAI INTERNATIONAL CENTER for the Promotion of Art and Science (JICPAS)

学校法人城西大学

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26

☎ 03-6238-1300

http://www.josai.jp/

Newsletter

Josai University Educational Corporation
3-26 Kioi-cho, Chiyoda-ku, Tokyo ☎ 03-6238-1300 http://www.josai.jp/

No.23

(2016.9.30 発行)



講演する青柳氏

2016年6月15日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は、前文化庁長官の青柳正規氏を招いた講演会「自然・人間そして科学技術」を城西大学坂戸キャンパス（埼玉県坂戸市）の清光ホールで開きました。青柳氏には、本学が今春開設した先端科学研究所の所長に就任いただきました。長い学究生活に裏打ちされた豊富で幅広いデータを駆使し、日本人のみならず人

水田三喜男記念
「グローバル・レクチャー」
シリーズ

学校法人城西大学創立50周年記念・水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ 青柳正規氏を招いた講演会を坂戸キャンパスにて開催

日時：2016年6月15日
場所：城西大学坂戸キャンパス

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ

類の将来に示唆を与えるスケールの大きな講演に、100人を超える地域の方々や教職員、学生ら約500人が熱心に耳を傾けました。

本学は50周年記念事業の一環として、内外から世界的に影響のある方、優れた研究業績を残された方などを招いてグローバル人材の育成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを展開しています。これまで、昨年5月21日の元マレーシア首相のマハティール・ビン・モハマド (Mahathir bin Mohamad) 氏を皮切りに、6月13日の米ハーバード大学名誉教授のエズラ・F・ヴォーゲル (Ezra F. Vogel) 氏▽7月9日のノーベル物理学賞受賞者の小林誠氏▽7月10日のスタジオリ代表取締役プロデューサー、鈴木敏夫氏▽10月1日の日本経済団体連合会名誉会長の米倉昌弘氏▽11月21日の国際浮世絵学会会長の小林忠氏▽12月4日の米国・南カリフォルニア大学映画テレビ学部長のエリザベス・M・デイリー (Elizabeth M. Daley) 氏の講演会を開催しました。青柳氏は8人目の登壇となりました。

青柳氏はギリシャ・ローマ考古学の第一人者。1944年、中国大連市生まれ。東京大学文学部長、同副学長を経て国立西洋美術館館長、文化庁長官を歴任されました。現在、東京大学名誉教授、日本学士院会員。

2006年紫綬褒章。2011年NHK放送文化賞受賞。「エウローパの舟の家」「古代都市ローマ」など著書多数があります。

講演に先立ち、水田理事長は挨拶で「本学は昨年創立50周年を迎えましたが、新たな50年計画の大きな柱として、自然科学と人文科学の垣根を越え、新たな先端的な研究と教育分野とその課題を探索する Institute of Advanced Studies の設置をいたしました。このたび自然科学と人文科学の分野を考えていく（本学の）先端科学研究所に誠にふさわしい青柳先生にお受けいただき、ありがたいと思っております。今日は、科学技術や人間性など幅広いお話をおうかがいすること、日本と世界のことを考える良い機会にしたいと思えます」と述べました。

青柳氏は講演で「私たちは科学技術の恩恵を受けているが、その一方で危うさもあることを皆で認識することが大切だ」と切り出しました。大航海時代にさらに進展した「世界の一体化」は、近年のグローバル化時代を経て、人口問題や環境問題、貧困問題、疾病問題、難民問題などの難問に直面する新たな世界の一体化の段階に入ったと述べました。青柳氏は「特に深刻なのが地球温暖化などの環境問題」として、他種の動物を捕食する動物を意味する「捕食者」は、「人間にとっては環境」と指摘。「人口数にまで影響を及ぼすほど環境悪化が進んだら、自然循環はしないでおそらく人類は滅んでいく」と述べました。

さらに青柳氏は「歴史や文明の盛衰を見ると、発明、発見、工夫が人類を将来、もしかすると滅ぼす原因になるのではないか」とも述べ、「先端科学全体を見渡すことができず、神頼みのような怖い状態になっている今、科学技術の恩恵をただ享受するのではなく、どのような研究がなされ、その貢献と弊害を我々一人ひとりが考えていかなければならない」と結びました。



お迎えをする UCR の学生と教職員

表彰

UCRより水田理事長へUCRメダリオン授与

日時：2016年5月9日
場所：University of California Riverside, United States of America

表彰

UCR (University of California Riverside) は、学校法人城西大学との長年の交流への貢献に対し、UCRにおける最高の感謝の印である「UCRメダリオン」を2016年5月

質疑応答で、青柳氏が質問に答えて「一人ひとりの生活をどう抑制的なものにしていくかと

いうことが環境問題では「一番重要」と語ると、会場から大きな拍手がわき起こりました。

9日に水田理事長に授けました。

UCRメダリオンはUCRに対し、極めて大きな貢献をしたUCRの友人、関係者に贈るためUCRリバーサイドキャンパスにて創設されたもので、これまで著名な7名の方に贈られており、水田理事長で8人目となりました。

本学への授与理由は、1986年に始まる継続的な両学の学生交流ならびに国際教育のサポートへの貢献で、強いリーダーシップによってこのプログラムを構築してきた水田宗子理事長への感謝とのことです。メダリオンの上には「1986年、水田理事長により学校法人城西大学がUCRの初めての海外姉妹校として学術交流協定締結したこと、そして作られた両学の国際交流プログラムが継続発展してきたこと、さらにその交流が、水田理事長の卓越したリーダーシップを通じて拡大を続け、さらに幅広く発展していることへの感謝を込めて」と書かれています。

授賞式は、Sharon Duffy エクステンションプログラムの司会で、Kim Wilcox UCR 総長の挨拶に始まり、お祝いのためにリバーサイド市長 Rusty Bailey 氏と Harry H

Horinouchi 総領事などもかけつけてくださいました。

これまで、城西大学と城西国際大学の3200名以上の学生がUCRの短期と長期プログラムに参加しました。学生たちはリバーサイドの地味な厚いホームステイファミリーの家で泊まり、充実した日々を過ごしました。

また、城西大学は、これまでの貢献に感謝を込めて、Sharon Duffy 先生に学校法人

城西大学生涯教育センター名誉所長に任じ、Duffy 先生も大変光栄に思いますと喜んでおられました。

2016年6月には、Seisun Shigematsu 先生とともにUCR 留学生21名が城西にきましたし、また秋学期から新しい長期の留学生在が来ることも楽しみです。

このメダリオンの授与が、UCRと城西の関係強化し、国際教育が新たなステージにいくことが期待されます。

講演会・シンポジウム

マレーシアのダト・スリ・イドリス

高等教育担当大臣を招いた講演会を開催

講演会
シンポジウム

日時：2016年4月6日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2016年4月6日、学校法人城西大学は、マレーシアのダト・スリ・イドリス高等教育担当大臣を招いた講演会を、東京紀尾井町キャンパス1号棟のホールで開催しました。

本学は、国際性、専門性、日本文化を身につけたグローバル人材の育成を教育目標の一つに掲げ、積極的に海外の大学、研究機関と学術交流協定を結んできました。その数は160を超えるまでになっています。近年は、アセアン諸国の大学との提携強化にも力を入れており、昨年5月21日には、創立50周年を記念した「グローバル・レクチャー」シリーズのスタートとしてマレーシアのマハティール・ビン・モハマド元首相の講演会を開催。マハティール元首相の来学と講演会を記念して法人本部内にアセアン研究センター

を設立しました。

このほど学術交流協定を結んでいるマレーシアのマネジメント&サイエンス大学との間で、イスラム教の戒律に沿ったハラルに関する共同研究を行うセンターを両大学に設立することに、イドリス担当大臣はこの日の調印式に合わせて来日されました。

講演会に先立ち、水田宗子理事長が「ハラルに関する共同研究センター設立は両大学にとって大変記念すべきことです。大変お忙しいなか、おいでいただいた高等教育担当相のご講演に感謝します」と歓迎のスピーチ。マネジメント&サイエンス大学のモハマド・シユクリ学長も「城西大学と本学は大変親しい関係です。研究交流がさらに進むのは大変うれしいことです」と応えました。

講演会
シンポジウム

学校法人城西大学創立50周年記念 特別講演
アメリカ哲学者バーンスタイン氏を招いた
講演会を開催

日時…2016年6月8日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2016年6月8日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は、アメリカの哲学者・



講演するイドリス高等教育担当大臣

イドリス担当大臣は「マレーシアにおける高等教育のシナリオ」と題した講演会でマレーシアの高等教育の現状を紹介。日本のいいところも取り入れつつ、グローバルな世界で評価される大学教育を行っていきたいと結びました。ユーモアも交えながらのイドリス担当大臣の熱弁に、ホールを埋めた教職員や学生約160人が熱心に聴き入りました。講演会に引き続いて、ハラル研究センター



調印する水田理事長とシュクリ学長

の調印式が行われ、水田理事長、シュクリ学長がサインを交換。イドリス担当大臣からも立ち会いのサインをいただきました。ハラル研究をめぐっては、化粧品分野で本学と埼玉県、同県内の化粧品製造業者による産学官連携の取り組みが進められており、今回のマネジメント&サイエンス大学とのセンター設立によって、さらなる研究の成果が期待されます。



講演するバーンスタイン氏

リチャード・J・バーンスタイン氏を招いた講演会「ハンナ・アーレント——思考を侮る悪について」を東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催しました。学校法人創立50周年を記念した特別講演で、研究者や本学の教職員、学生、留学生ら約150人が、世界的な哲学者による刺激的な講演に耳を傾けました。バーンスタイン氏は、米国ニュースクール大学の哲学教授で元大学院長。イェール大学、ハバフォード大学で長年教鞭をとるかたわら、ヨーロッパの形而上学とアメリカの分析哲学を横断する著作を多数発表してきました。講演のテーマとなったハンナ・アーレント（1906～1975年）はドイツ生まれ。社会民主主義者のユダヤ人家庭で育ち、大学では哲学者のハイデガーに師事。第二次世界



午前の講演会后、マレーシアの留学生らと記念撮影

大戦中にナチスの強制収容所に連行されたものの脱出して最後はアメリカに亡命しました。1951年に「全体主義の起源」を発表して話題になり、哲学者の地位を確立。その後、プリンストン大学やハーバード大学で教鞭をとりました。1960年に逮捕された、ナチスのユダヤ人列車移送の最高責任者を務めたアドルフ・アイヒマンに対する裁判のレポートは、「アイヒマン擁護」との批判も生み、全米で激しい論争を巻き起こしました。特別講演に先立ち、水田理事長は「世界的に有名な哲学者をお迎えすることができて光栄です。ジェノサイドは20世紀に傷を残してきました。本日は倫理の根源を問いたくない講演になると思います。さまざまな思索や将来を考える示唆をいただけるのではないかと思います」と歓迎のスピーチをしました。



講演する方社長



講演会の様子



講演するナビエ氏



学生から花束を受けたナビエ氏

講演会
シンポジウム

イノベーションセンター主催 エグゼクティブセミナーを開催

日時：2016年6月14日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

バーンスタイン氏は講演で、アーレントがアイヒマン裁判のレポートで指摘した「悪の陳腐さ」について言及。「普通の人間が思考を放棄し、上からの命令に忠実に従うことでホロコーストのような悪に加担してしまう。思考停止が「悪を生む」ということこそが、アーレントが言いたかったことだと指摘しました。その上で、現在のアメリカの状況にも触れ、「イスラムについて言われていることにも同じような感じを受ける。正しいか正しくないか二極的な考え方は間違っている。思考停止することなく、立ち

止まって考えること。それによって悪に抵抗していくことが大切だ」と結びました。質疑応答でバーンスタイン氏は、留学生や一般の方からの質問にも丁寧にお答えいただきました。同日午前には、バーンスタイン氏の妻でプリンモア大学教授のキャロル・L・バーンスタイン氏の講演会「文化的記憶の役割」も同キャンパス3号棟の国際会議室で行われました。文学作品、映画における広島やユダヤ人虐殺など大きな悲劇と記憶についての論考に、留学生や教職員、学生ら約100人が聞き入りました。

講演会
シンポジウム

学校法人城西大学創立50周年記念特別講演
日本文学研究者 スーザン・ナビエ氏を招いた
講演会を開催

日時：2016年6月17日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

学校法人城西大学イノベーションセンターは、2016年6月14日にエグゼクティブセミナーを東京紀尾井町キャンパスにて開催し、1998年城西国際大学大学院人文科学研究科修士生であり、現在株式会社RSテクノロジーズ代表取締役社長の方永義（ほうながよし）氏を講師にお迎えして、「日系3世方永義の激動の半世から学ぶ経営哲学」(会社設立からM&A、そして上場企業オーナーへ)というテーマで講演いただきました。講演では、方社長より城西国際大学大学院

人文科学研究科修士後に起業した経緯と着眼点、夢を持つ大切さについてご講演いただきました。本題目の「モノ」の再生から「経営者」の再生へ」では、日本経済を支えてきたのは、企業数の99%以上を占めるモノづくりの高い技術力を有する中小中堅企業であり、今後、日本再生の為に競争力強化と事業継承を支援していきたいという考えを示されました。講演会終了後は本学学生との交流も行われ、さらに当時方社長の指導教員であった栗木先生を交え、学生との写真撮影を行いました。

2016年6月17日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は、米国・タフツ大学教授で日本文学研究者のソーザン・ナビエ（Susan Najber）氏を招いた講演会「ここに龍あり——スタジオ・ジブリの伝説と遺産」を東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催しました。学校法人創立50周年を記念した特別講演で、研究者や城西国際大学メディア学部の学生や教職員ら約200人が、ホールや中継の教室で現代日本のアニメ研究の第一人者による興味深い講演に聴き入りしました。

ナビエ氏は、ハーバード大学東アジア言語文学部で博士号を取得。テキサス大学の助教授、教授を経て現在、タフツ大学教授。アメリカにおける日本文学、日本文化研究の第一人者で、特に現代日本のアニメーションを初めて英語圏において学問的に批評、考察した功績で世界的に知られています。2003年に日本児童文学学会特別賞を受賞した『現代日本のアニメ——AKIRA』から『千と千尋の神隠し』まで（中公叢書）などの著書があります。

水田理事長は講演の前に「メディア学部ではシネマスタディーズというプログラムがあ

り、アニメーションの研究コースも出来ました。本日の講演は、本学のe-learningプログラムの一環でもあります。ご高名なナビエ教授をお招きし、講演会を開催できますことを大変うれしく思っております」と歓迎のスピーチをしました。

ナビエ氏は講演で「ファンタジーの世界を明るく描くディズニーのアニメと違い、スタジオ・ジブリのアニメは重層的で多面的な世界を表現している」と指摘。『となりのトトロ』と『平成狸合戦ぽんぽこ』の印象的な場面の映像を流しながら、「ジブリのアニメは複雑。喪失と哀悼、それにまつわる感情と癒しが大きなテーマになっている」と語りました。最後に「千と千尋の神隠し」で象徴的に描かれ、講演タイトルの一部にもなった「龍」に触れ、「ドラゴンは、記憶と心の中で永遠に飛び続ける」と結びました。

また、ナビエ氏は学生の質問に答えて、「以前は考えられないことだったが、素晴らしいトレンドが起きていて、ジブリの映画は今、アメリカの文化の中にも埋め込まれている」と述べました。

Modern Poetry International Symposium

国際現代詩シンポジウム「詩と幼年時代」を開催、

併せて留学生詩歌賞「帰路賞」創設を発表

日時：2016年7月1日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



2016年7月1日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで、国際現代詩シンポジウム「詩と幼年時代」を開催しました。高旭

東（Gao Xudong）中国人民大学教授による魯迅をテーマにした講演会に加え、日本と中国の現代詩人による座談会と朗読会で、詩人や研究者、教職員、留学生、日本人学生ら約



講演する高氏

160人が聴き入りました。今回のイベントを通じて、日中両国に蓄積された知の活用と両国間の研究ネットワークの強化などが期待されます。

本学は昨年12月、創立50周年を記念して法人本部内に国際現代詩センターを設立。その後、中国の北京大學詩歌研究院、北京師範大学、首都師範大学と交流協定を結び、日中両国の現代詩ジャンルに関する研究の推進を行っています。今年3月には北京大学内に本学の現代詩センター事務所を開設。北京大学内に日本の大学の研究所が設置される初のケースとなりました。今回のイベントは、両国の詩歌研究を一層深めることを目的として開催しました。

開会を前に水田理事長が主催者を代表して挨拶。「北京大学との縁で高先生による魯迅研究の講演をいただくことになりました。魯迅は近代化の中で中国と日本をつなぐ極め



座談会の様子

て重要な文学者で、本日のシンポジウムの場にもふさわしいご講演と期待しています。また、シンポジウムは、創作する者にとって幼年時代はどういう意味を持っているかがテーマですが、同時に日中の激動の時代に成長してきた、年代、経験も違う詩人たちの幼年時代と表現との関係についても考えてみたいと思います」と述べました。

午前中は高氏が「魯迅 第一作目の小説における日本との関係性」と題して講演、午後の座談会と朗読会に移りました。参加した詩人は中国側が、楊克（Yang Ke）、梁曉明（Liang Xiaoming）、樹才（Shu Cai）、華清（Hua Qing）、从容（Cong Rong）の5氏に加え、城西国際大学の田原（Tian Yuan）客員教授。日本側が、宇佐美孝二、竹内新、新延拳、野村喜和夫、三角みづ紀の5氏と詩人でもある水田理事長。



朗読する从氏



朗読する新延氏



留学生から花束の贈呈



朗読会の様子、朗読者は三角氏

座談会は、楊、新延、華、野村、田の5氏に水田理事長が登壇。進行役は田教授が務め、水田理事長は「詩だけでなく創作するものにとって幼年時代は大きな原点。また風景と写真が幼年時代を語るキーワードになっている」と述べました。楊氏は「幼年時代は唐詩に親しみ、父と母に詩の手ほどきを受けた。80年代になって初めて外国の詩が翻訳され、外国の詩を学ぶことができた」と振り返りました。新延氏は「詩という魔法を使うことによって人は幼年時代に帰ることができると語り、華氏は「詩は我々の志を表現してくれる。人としての叙情や考察、願いを表してくれる」と述べました。また、野村氏は「中国の方のコメントを聴いていると、詩と死が同じに聞こえる。幼年と人間の最後の死は同じことなのではないか」と述べ、田教授は「どの詩人にとっても幼年時代は創作の源の一つ。人間形成にも大きな影響を与えるのではないかと語りました。

この後、梁、樹、从、竹内、宇佐美、三角の6氏が加わって朗読会が行われました。新たに加わった6氏がそれぞれ「詩と幼年時代」について短くスピーチ、12人全員がこの日のテーマにちなんだ詩を一遍ずつ朗読しました。高氏が飛び入りで水田理事長の詩を暗唱、即興で4行詩を披露する一幕もありました。

●張笑神 (Zhang Xiaoshen) 水墨画展

今回のシンポジウムを記念し2016年7月1日から4日まで、東京紀尾井町キャンパス3号棟の「水田美術館アートギャラリー」で、中国の書道家で水墨画家の張笑神氏の水墨画展が開かれました。

張氏は1958年生まれ。墨に魅了され、50歳を過ぎてから絵筆を執った異色の経歴の持ち主です。作品は墨の滲みやぼかしと



張笑神水墨画展のテープカット (右から2人目が張氏)

ともに描線を用いて抽象的に描かれているのが特徴で、多くの国際芸術専門機関や個人に所蔵されています。北京大学詩歌研究院に本学の現代詩センターを開設した折にも、温かなサポートをいただいたほか、今回のシンポジウムにも多額の寄付をいただきました。

今回は詩人の谷川俊太郎氏を描いた作品など20点が展示されました。シンポジウムを前にオープニングセレモニーが行われ、水田理事長が「前衛的で伝統を超えた新しい水墨画を目指されている。今回のイベントにも大変ふさわしいもので、展示会は私どもにとって思い出深いものになると思いますが」と挨拶。張氏は「自分の理想を実現させてくれる場を提供していただき感謝します。皆さまのご支援による展示会は、私の次のステップの原動力になると思います」と心えました。

「帰路賞」概要

主催	学校法人城西大学国際現代詩センター
協賛	思潮社
後援	毎日新聞社、ジャパンタイムズ
選考委員	北川透(詩人)、高橋睦郎(詩人)、野村喜和夫(詩人)、平田俊子(詩人)、水田宗子(詩人・比較文学者)、田原(詩人・翻訳家)
対象	現代詩(日本語で書かれたもの)
応募資格	日本で学ぶ外国人留学生 / 大学生 / 高校生。年齢不問
応募方法	応募作品は自作・未発表のもの
締め切り	2016年11月30日(消印有効) 住所、氏名(ペンネームの場合は本名も)、年齢、性別、電話、Eメールアドレス、国籍、略歴を記すこと。作品はA4用紙にプリントアウトしたもの。原稿の返却には応じられません。
郵送先	〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26 城西大学・城西国際大学 留学生詩歌賞「帰路賞」委員会
発表	2017年1月末に、当インターネットwebサイトで発表。 雑誌「現代詩手帖」への掲載も予定。表彰式は2017年2月(予定)
賞金	最優秀作品(1編)30万円 奨励賞作品(3編)3万円
連絡先	〒102-0093 東京都千代田区平河町2-3-20 学校法人城西大学紀尾井町キャンパス3号棟 国際現代詩センター E-メール: kiro@jiu.ac.jp

●留学生詩歌賞「帰路賞」創設を発表

この日の国際現代詩シンポジウムの開会挨拶の中で、水田理事長は日本で学ぶ留学生を対象にした詩歌賞「帰路賞」を創設したことを発表しました。

これは創立50周年を記念していただいた城西大連・瀋陽校友会(本学留学生による同窓会組織)からの寄付金を基金として創設したものです。賞の名称は、水田理事長の詩集「帰路」にちなみのもので、異国文化に触れ、さまざまな勉学に励む中で、さまざまな思いを詩に託してほしいとの願いをこめました。新鮮で個性的な作品を期待しています。ふるってご応募ください。

学校法人城西大学創立50周年記念 特別講演

マギル大学教授トマス・ラマール氏を招いた

講演会を開催

講演会
シンポジウム

日時…2016年7月12日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



講演するラマール氏

2016年7月12日、学校法人城西大学(水田宗子理事長)は、カナダ・マギル大学教授で日本文学・アニメ研究者のトマス・ラマール(Thomas Lamare)氏を招いた講演会「地域的テレビにおけるアニメ」を東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催しました。

学校法人創立50周年を記念した特別講演で、研究者や城西国際大学メディア学部や学生や教職員ら約150人が、ホールでアニメ研究を牽引するもともと先鋭的な研究者による講演に聴き入りました。



熱心に聞き入る聴講者

ラマール氏は、シカゴ大学東アジア言語文明学部で博士号を取得、現在マギル大学教授。源氏物語研究から日本文学の研究者としてのキャリアをはじめ、谷崎潤一郎研究、映画研究など、多岐にわたる分野で大きな学問的貢献を果たしてきました。

とりわけ、日本アニメの歴史を、技術・社会・作品の詳細な分析から紐解いた『アニメ・マシーン』(2009年)は、ヨーロッパ日本研究学会(EAIS)と映画メディア学会(SCMS)で出版賞を受賞するなど、高い評価を受けてきました。

城西国際大学・リビット水田堯客員教授は講演を前に「グローバル化こそが現在の大学が推進しなければならない責務であり、城西国際大学はメディア学部を中心として、大学間、研究者間、学生間でグローバルな交流が可能となる場を提供しようと努力を重ねており、その中心課題のひとつが、本日の公演もその一環である e-learning プログラムであります。世界的に重要な研究を発表し続けているラマール教授をお招きし、講演会を開催できますことを大変うれしく思っております」と歓迎のスピーチをしました。

ラマール氏は、アニメ作品の分析を行うばかりでなく、アニメ作品が生産、流通、消費される様態を十分に考慮に入れることが重要であると主張し、『キャブテン翼』と『花より男子』を題材として、これらのアニメ・コ

ンテンツがどのようにグローバル社会の中で流通しているのかについて考察しました。ラマール氏はとりわけ、『キャブテン翼』に関しては、1980年代から2000年代にいたる歴史的厚みのなかで、日本、中東、ヨーロッパでどのように見られてきたか、その受容は国際情勢とどのように関係してきたかに注目し、『花より男子』に関しては、マンガ、アニメ、テレビドラマ、映画などのメディア間で流通してきたかに焦点を当てました。

また、ラマール氏は、学生から寄せられたメディア間の流通に関する質問に答えて、「商業的目的だけのために同じ作品を再利用するメディア・ミックスには否定的だが、メディア間の流通は、常に何か新しいものを作り出しており、商業主義には還元されない可能性がある」と述べました。

講演会
シンポジウム

Modern Poetry International Symposium II 国際現代詩シンポジウム「俳句と現代詩のあいだ」を開催

日時…2016年9月16日
場所…学校法人城西国際大学東京紀尾井町キャンパス

2016年9月16日、学校法人城西国際大学（水田宗子理事長）は、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで、国際現代詩シンポジウム「俳句と現代詩のあいだ」を開催しました。本学の国際現代詩センターが主催、思潮社の後援をいただきました。芥川賞作家で詩人の多和田葉子氏の特別講演に加え、日本の第一線で活躍する著名な俳人と詩人による座談会によって、二つのジャンルの間に広がる表現の空間について語り合いました。詩人や俳人、作家、市民の方々約160人が興味深いテーマのシンポジウムに聴き入りました。

人本国内に国際現代詩センターを設立しました。日本および世界における近現代詩の批評的研究や翻訳、鑑賞の中心となることを目的としたもので、詩に関するシンポジウムや対談・鼎談・朗読会を開催しています。東日本大震災から5年目の今年3月11日、3・11の惨事を詠った詩人と俳人による座談会と詩の朗読会「荒ぶるゆりかご——3・11の惨事への詩的な応答——」を開催。7月1日には、日本と中国の現代詩人による座談会と朗読会による国際現代詩シンポジウム「詩と幼年時代」を開催しました。

水田理事長は開会挨拶で「俳句が西洋の詩に与えた影響は大きい。一度は俳句と現代詩の関係、（両者の間に）どういう表現の空間が広がっているのか向かい合ってみてみたいと思っていました」とシンポジウム開催の趣旨を説明。「多和田氏はジャンルや国、言語を交わらせながら表現を開拓されてきた方。ご講演をいただくことは大変、幸せなことです」と、多和田氏を紹介しました。

多和田氏は「だぶる文字、かさなる声」と題した特別公演の冒頭、語学や文法、言語をあしらった「川柳もどき」（多和田氏）を披露して会場の笑いと拍手を受けました。多和田氏はドイツの詩を例に多言語性についても言及。日本語のひらがなと漢字についても触れ、「漢字が出てくると抽象的な意味のある空間が広がり、一瞬足を止める感じ。ひらがなはするすると流れていく感じ。止める、流れるの変化によってビジュアルリズムが出てくるのではないか」と語りました。



講演する多和田氏



発言する高野氏



発言する高橋氏



発言する神野氏

シンポジウムには、高橋睦郎（詩人）、高野ムツオ（俳人）、神野紗希（俳人）、田原（詩人・翻訳家、城西国際大学客員教授）の4氏が登壇。多和田氏と詩人で比較文学者でもある水田理事長がコメントーターを務めました。高橋氏は「日本の文学史の中核は歌の歴史。長いものから短くなっていく歴史だった。その中で俳句は最も進化した最先端の詩歌」と述べました。担い手の高齢化で「俳句の将来に不安を持っている」とも語った高野氏は「現代詩に対するコンプレックスを持ちながら、俳人が言葉のあり方を認識してきたことによって戦後、新しい俳句が形作られたのかなと思っている」と指摘しました。神野氏は「今の現代詩は非常に音楽的だというのが率直な感想。かつて視覚的な刺激を受けた現代俳句が今度は、音、調べ、声としての言葉を書き留める現代詩からエッセンスをもら



シンポジウムの様子

うことができるのではないかと語りました。最後に田氏は「国際的なジャンルになっている俳句に比べて漢詩はそうではない。中国語は閉鎖的な言語で、日本語は開放的な言語」と述べました。
4氏の発言を受けて多和田氏は「定型など小説が俳句から学べることは非常にたくさんあると感じた」とコメント。水田理事長は「現代詩と俳句はいろいろなところで一緒に、ジャンルとして作り、生き残ってきたところがあるのではないのでしょうか」と結びました。
国際現代詩センターでは、スウェーデン王国「チカダ賞」との共催で、生命の尊厳を表現することについて考える第2回チカダ賞記念シンポジウムを11月18日に東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催します。多くのご参加をお待ちします。



満席となったスポーツ文化センター



水田宗子理事長による式辞

2016年4月2日、「城西国際大学創立25周年入学式 理学療法学科開学式」を城西国際大学千葉東金キャンパススポーツ文化センターで挙行了しました。
新入生を代表して、4月より開学した福祉総合学部理学療法学科の阿部菜摘さんが「海外でも活躍できるスポーツトレーナーになる夢をめざして、素晴らしい学びの環境を有効

に活用していきたい」と力強く宣誓しました。
当日はマレーシアペルリス州皇太子トウンター・シャイド・ファイズディン・プトラ・ジャマルライル殿下や、元マレーシア観光大臣で、ファウジア王妃財団理事、城西国際大学アセアン研究センター所長であるタンスリ・ン・イエンイエン博士にご臨席いただきました。

学术交流活動

城西国際大学創立25周年入学式・理学療法学科開学式を挙

日時..2016年4月2日
場所..城西国際大学千葉東金キャンパス

学术交流活動

本年より、マレーシアの大変親しい提携校であるマレーシア大学ベルリス校の女子学生に対して、ベルリス州のファウジア王妃が主宰されている財団から本学に留学するための奨学金が支給される制度が創設されました。その初代5名の留学生在が今回入学しましたが、この新しい両大学の結びつきを記念して、ファウジア王妃のご子息でマレーシア大学ベルリス



トワンクー・シャイド・ファイズディン皇太子殿下による祝辞

校の理事長である皇太子殿下、理事長代理の皇太子妃殿下を始め、財団の理事の方々、そして両大学の関係発展に大変ご尽力いただきました。ベルリス校の前副理事長、現副理事長の方々が、この晴れの日にご臨席くださいました。多数のご来賓・保護者の方々に見守られ、会場が溢れんばかりの盛況な入学式となりました。



柳澤伯夫学長による告辞

同社は、2000年に創立して以来、「MOUSSY (マウジー)」「SLY (スライ)」など若い女性に人気があるブランドを擁し、現在は国内に340店舗、中国を中心に海外で160店舗を展開しています。今回の包括協定により、両者で産学連携・相互協力を行い、経営情報学部が中心となって、新時代のファッション業界における人材育成に寄与していきます。

包括協定の締結に際して、水田理事長は「城西国際大学の創立25周年の節目の年に、提携することができ、大変うれしい。本学には多くの留学生も学んでおり、いろいろな面で互いに協力していきたい」とあいさつしました。また、村井社長は「当社は若い女性が主役となって自分たちが着たい服を作る、ということ成長してきた。若い学生の発信力に期待したい」と述べました。今後は、同社でのインターンシップ教育の実施、社員・教職員の相互交流、学生の店舗でのイベント参加などを行っていく方針です。



協定書に調印した水田宗子理事長(左)と村井博之社長

株式会社バロックジャパンリミテッドと産学連携に関する包括協定を締結



日時…2016年4月11日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2016年4月11日、学校法人城西大学・城西国際大学は、東京紀尾井町キャンパスで、株式会社バロックジャパンリミテッド(本社・東京都目黒区、村井博之社長)との間で「産学連携に関する包括協定」を締結しました。

国際交流活動

ホーチミン市工業大学の一行が来学



日時…2016年4月7日
場所…城西国際大学千葉東金キャンパス、
学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2016年4月7日、ベトナムホーチミン市工業大学から理事長 Kieu Xuan Hung 先生を代表とする視察団4名(副学長 Nguyen Xuan Hoang Viet 先生、Tran Dinh Huy 施設計画・管理担当副社長と日本語研修センター所長 Nguyen Thi Bich Thuy)が、両大学の交流関係を深め、交換留学プログラムの具体的な策定と研修、その他でのさらなる協力推進をするため、訪問しました。



東京紀尾井町キャンパスにてホーチミン市工業大学の来訪

一行は、最初に千葉東金キャンパスを訪れ、ホーチミン市工業大学からの留学生に面会し、キャンパスを視察しました。次に東京紀尾井町キャンパスに移動し、水田理事長ほか本学教員に表敬訪問。現在の交流実態の報告と今後の交流につき、議論しました。会議の後、一行は、キャンパス見学を行い、メディア学部施設、アセンセンターではさまざまな質問をしていました。

ベトナムのホーチミン市工業大学と本学は交換留学、国際教育推進のため、2015年1月に大学間協定を結んでおります。

今後、相互の理解を深め、学生の交流、また教員の派遣、その他活発な交流が期待されます。



ミシエール・ローバック・スウェーデン大使夫人による「ヨーロッパ・カフェ」を開催

日時：2016年4月8日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

ミシエール・ローバック・スウェーデン大使夫人をお招きし、「ヨーロッパ・カフェ」が2016年4月8日、東京紀尾井町キャンパス3号棟国際会議室で開催されました。「ヨーロッパ・カフェ」はカジュアルな雰囲気ゲストの話を聞きながら、世界各国の文化、政治や歴史を幅広く学ぶための企画です。

水田宗子理事長や本学と城西国際大学の役職教員、学生・留学生約100人が、飲み物やお菓子などを取りながらローバック氏の興

味深いお話に聞き入りました。

フランス人のローバック氏は政治や経済を学び、スウェーデン人のマグヌス・ローバック氏と結婚。1982年から1986年までに日本に滞在しました。スウェーデンでは投資銀行で働いたほか、夫のベルギーの赴任時には再び大学に入り、情報コミュニケーションの修士課程を修了したキャリアがあります。

ローバック氏は日本での発見のほか、フランスやスウェーデンとの文化や食事などの違



ヴェニス国際大学の Dr. Umberto Vattani が 学校法人城西大学を来訪

日時：2016年4月8日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2016年4月8日、イタリアのヴェニス国際大学 (Venice International University) の Dr. Umberto Vattani が東京紀尾井町キャンパスに来学されました。

ヴェニス国際大学は1995年、「Globalization Program」という共通課題に取り組むことを目的として、イタリアのヴェニスに面した海にあるサン・セルボロ島に設立されました。ここには、ヨーロッパ各地からの学生に加え、日本、中国、中東、アメリカなど、様々な国から学生が集まり、大変国際色豊かな大学となっています。

このたびの Vattani 学長の訪問は、本学の高等人文学研究所長であり、前・文化庁長官の青柳正規先生のご紹介により、実現いたしました。



Vattani 学長との集合写真



東京紀尾井町キャンパスにてヨーロッパ・カフェ



UniMAPにて今後の大学間連携について議論（正面にマレーシア・ペルリスの皇太子および皇太子妃、右手に森本学長）

学校法人城西大学一行がマレーシアのペルリス州を訪問

日時…2016年5月15日～18日
場所…マレーシア大学ペルリス校、マレーシア



会議では、両学における今後の学生交流や共同教育、研究交流などの可能性について、積極的な意見交換がおこなわれました。

今回のVattani学長の訪問を機に、両学の学術交流の一層の推進が期待されます。

2016年5月15日から18日の日程でマレーシアのペルリス州を、城西大学および城西短期大学の森本雅憲学長と城西大学および城西国際大学の杉林堅次副学長が水田宗子理事長の名代として訪問しました。なお、今年

の4月にはペルリス州の皇太子と皇太子妃が本学を訪問されています。

今回の渡航の主目的はペルリス州の王様（His Royal Highness The Raja of Perlis, Malaysia）の73才の誕生日を祝うことであり、昨年本学でも行ったアジアサマーセミナーのオリジナル5校の一つであるマレーシア大学ペルリス校（UniMAP）等との大学連携について協議すること、また、UniMAPが主催する国際会議への参加も重要な目的でした。

王様の誕生会は350名強の参加者があり、大変豪華でした。また、この行事については、異文化に触れることができ、大変興味深いものでした。

大学連携協議では、学校法人城西大学アセアン研究センターの所長でマレーシアの元観光大臣であるNg Yan Yan先生のリーダーシップもあつて、来年度もアセアンから多くの留学生を受け入れることになりそうです。また、国際会議では杉林副学長による法人、城西大学、城西国際大学の特徴などについて紹介が行われました。

「プラハ経済大学・学校法人城西大学友好の植樹式」を挙行

日時…2016年5月16日
場所…城西国際大学千葉東金キャンパス



2016年5月16日、駐日チェコ共和国大使館のトマーシュ・ドゥップ特命全権大使と、本学海外姉妹校のプラハ経済大学ハナ・マフコヴァー学長が来学され、ローズガーデンで「友好の植樹式」を行いました。

今回植樹されたのは、マフコヴァー学長から贈られたチェコのバラ「グルス・アン・テプリッツ」と、返礼として本学からマフコヴァー学長に贈呈した新種のバラ「ハ

ナ・マフコヴァー」の2種。「ハナ・マフコヴァー」は、日本ばら会の富吉紀夫氏により作出され、国際ばらコンクール新品种コンテスト、フロリバンダ部門の入賞作です。

植樹式には本学学生や志賀直温 東金市長、椎名千収 山武市長、塚瀬一夫 東金国際交流協会会長ら地元の皆様もお越しになり、地域との国際交流も進展しました。



植樹式でのあいさつ（右から水田宗子理事長、トマーシュ・ドゥップ特命全権大使、ハナ・マフコヴァー学長）



植樹式 記念撮影



チェコ共和国上院議員・文教人権請願委員会が表敬訪問

日時…2016年5月17日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



懇談後の記念撮影

2016年5月17日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は、チェコ共和国上院議員の文教人権請願委員会のメンバーの表敬訪問を受けました。本学とチェコの学生交流促進などに関し、貴重な意見交換の場となりました。

本学は中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界の様々な大学と積極的に国際交流を深めるなか、特に中欧地域との教育交流を強化しています。チェコでは、プラハ経済大学、カ

レル大学、マサリク大学の3大学と学術交流協定を締結し、城西大学と城西国際大学で留学生を受け入れています。これまで、チェコから受け入れた学生は5人、送り出した学生は14人。また、本学では、チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキアの「V4（ヴィシエグラド4か国）」とのイベントを外務省、各大使館とともに毎年、開催しています。

一行は訪日団団長のズデニェク・ベルカ委員長をはじめ5人。約1週間の滞在で文化庁や国会、NHK、大学・小学校などを訪問、日本とチェコの高専教育機関の学生交流促進や科学技術研究分野での交流促進などについて意見交換をしました。すでに学生交流が盛んに行われている本学が、大学訪問の最初となりました。

この日午後、本学の東京紀尾井町キャンパスを訪れた一行は、3号棟の国際会議室で、水田理事長や柳澤伯夫・城西国際大学学長らと懇談。水田理事長は歓迎の挨拶で「本学の職員になった留学生もおります。日本の若い人たち、特に城西大学の若い人たちが、積極的に皆さんの国と交流してこれからの世紀を生きる人材に育ってほしいと願っています。これを機にますますチェコの国、大学と私どもの交流が深まることを心からお願いたします」と述べました。一方、ベルカ委員長は「留学生交換などで微力ながらお役に立ちたい」と応えました。本学の紹介ビデオ上映に続く懇談で、子どもの保護に長く関わってき

たというズザナ・パウティシヨヴァー委員は「子どもたちの権利は何よりも重要。皆さまは、子どもたちが有する権利に大きく関わり貢献されている」と発言。水田理事長は「私

どもの大学は『子ども福祉コース』も持っている。これからもご指導をお願いしたい」と述べました。

学校法人城西大学一行が瀋陽・大連の姉妹校を訪問

日時…2016年5月21日～24日
場所…瀋陽師範大学、大連理工大学、大連外国語大学、東北财经大学、中華人民共和国



【瀋陽師範大学創立65周年記念式典参加】

2016年5月21日、本学姉妹校である瀋陽師範大学創立65周年を記念しての世界学長会議に水田宗子理事長が招待され、大学教育と国際化について講演を致しました。世

界各地の姉妹校から、約40名がおいでになり、大変意義深い会議となりました。

瀋陽師範大学は、張徳祥先生のご紹介で学術交流協定を締結し、その後、特に古生物博物館、日本語教育、美術とデザイン学院との提携を推進してまいりました。

今回は、姉妹校とともに友好の森に植樹と本学の名前が刻まれたプレート除幕式を林群学長とともに行いました。

また、学長会議終了後、于文明書記、孫革院長と会談し、本学化石博物館の一層の連携推進を話し合いました。引き続き、美術とデザイン学院張鵬院長の案内で、学院の見学とお茶のおもてなしを受け、これから美術とデザイン学院とも学生の交流をスタートすることに合意しました。

【城西大連・東北学友会開催】

2016年5月22日、大連市内のホテルで学校法人城西大学創立50周年記念城西大連・東北学友会第5回目の交流会を開催。会は、日中連携大学院の学生でもある由志慎（大連理工大学外国語学院副院長）さんが務めました。



水田理事長の発表



孫 革館長（左から3番目）、于 文明書記（右から4番目）

城西大学・城西国際大学で学んだ日中連携大学院の卒業生、在学生をはじめ、J M B A スカラシップや共同教育プログラムの卒業生、向坊隆記念、村井隆奨学金、水田三喜男記念、水田宗子奨学金の受賞生、私費留学の卒業生等に加え、大連市対外友好協会、大連理工大学、大連外国語大学、中国東北大学から、多くの来賓の先生方などが出席しました。

また、大連理工大学元書記・城西大学名誉博士でいらつしやる張徳祥先生、および大連市中日友好学会会長も務める大連理工大学の杜鳳剛先生や、大連外国語大学の陳岩先生、そして急遽参加くださった大連市外事弁公室主任于涛氏などから心のこもったご挨拶をいただきました。

今回集まった卒業生たちは、母校と恩師へ



奨学生より感謝のメッセージ

の感謝を述べ、中日の相互理解に自分なりの力で貢献したい、そして、母校のさらなる発展のために力を尽くしていきたいと口々にお礼を述べました。

また、この学友会において、水田理事長の詩集『帰路』の中国語版が、大連理工大学出版会から出版されたお祝いがなされました。翻訳者は、陳岩先生で、この本は、学友会参加者全員にプレゼントされました。

水田理事長より、昨年この学友会で学校法人城西大学創立50周年にいただいたお祝い金を基に留学生詩歌賞「帰路」賞が設立されたことが発表されました。非常に意義あることとみなさんから歓迎されました。



学友会の集合写真

〔大連理工大学 大連理工大学 王寒松党委書記表敬訪問〕

2016年5月23日午前10時より、水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学一行は、新しく就任された王寒松党委書記を表敬訪問いたしました。

王党委書記は、これまでの大連理工大学と本学の交流の経緯ならびに実績をすべて理解しておられ、奨学金授与、日中連携大学院、J M B A 制度、水田三喜男記念文庫、本学への研修訪問について感謝の意を述べられ、また、水田理事長の詩集『帰路』が大連理工大学出版会から出版されたことを大変うれしく名譽に思うとお話しになり、特別にハードカバー版を手渡しされました。

引き続き、大連理工大学にて、向坊隆記念



大連理工大学 王 寒松書記との面会

村井隆、奨学金、水田三喜男記念、水田宗子、奨学金授与式および水田三喜男記念文庫第12次贈呈式を行いました。

賈振元副学長をはじめ同大学の先生方のご出席のもと、向坊隆記念、村井隆奨学金、水田三喜男記念、水田宗子奨学金授与式が行われ、大連理工大学大学院の両奨学生計20名に水田理事長および村井隆氏の長男である村井博之氏（パロックジャパンリミテッド社長）から奨学金が贈呈されました。

授与された院生は、いずれも大連理工大学の各専門分野の博士課程と修士課程から特に選ばれた皆さんであり、今後の研究活動、そして社会での活躍を大いに期待したいと思います。また、村井先生の意志がご家族によって引き継がれたことを大変うれしく思いました。

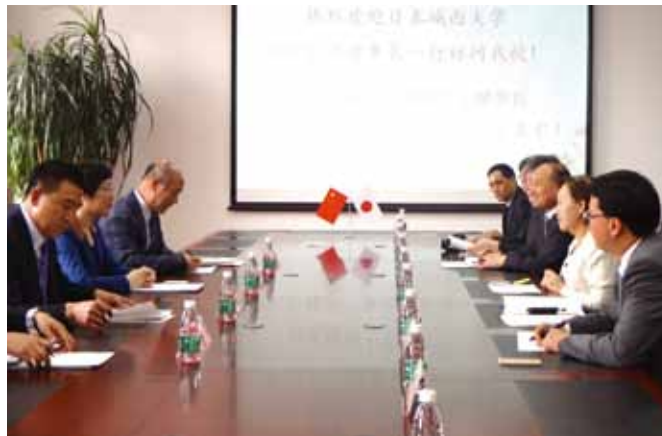
【大連外国語大学】
大連外国語大学 劉宏学長表敬訪問

引き続き、水田三喜男記念文庫の贈呈式が行われ、城西大学福島和伸先生から大連理工大学経済管理学部長の蘇敬勤先生に文庫の目録が贈られました。この記念文庫は、大連理工大学経済管理学部MBAに設置され、日本の経済やビジネスに関心のある研究者・院生、城西大学大学院経営学研究所とのJMBAプログラムに留学予定の院生に、とくに多く利用されているとのことでした。

今回は、王寒松党委書記の計らいもあり、郭東明学長にも面会し、交流を深めました。大連理工大学出身である郭学長は、幅広い交流を城西大学・城西国際大学と推進したいので、ぜひ日本に行き、城西大学を訪問したいとおっしゃっていました。



奨学生のみなさんと



大連外国語大学の訪問

2016年5月23日午後1時30分より、大連外国語大学の新学長となられた劉宏学長と面会し、新学長就任のお祝いを申し上げました。これまで共同して行ってきた大学院教育ならびにさらなる日本語教育の推進、観光人材育成への連携など、今後も交流の発展が期待されます。

2016年5月23日午後3時より、大連外国語大学において、大連外国語大学・城西大学・城西国際大学主催、日中短詩協会後援による国際合同シンポジウム「日中現代詩をめぐって——「外地と表現」を開催しました。

水田氏による外地と表現をめぐる発表を経て、「外地と表現」をテーマに、水田宗子、陳岩、杜鳳剛、劉利國、田原、また本学で博士号を取得した若手の大連外国語大学准教授である何志勇、孟海霞諸氏による座談会が開



懐 忠民会長から水田理事長へ大連対外友好協会の海外特別理事の詔書が授与

催されました。大連・旅順は、日本人も多く居住し、独特のモダニズムが展開された場所であり、このシンポジウムを開催するに大変ふさわしいキャンパスと言えます。本学で学んだ若き研究者の発表もあり、有意義な国際シンポジウムとなりました。

【大連対外友好協会新会長と面談・水田理事長へ海外特別理事の委託】

2016年5月23日午後、大連市対外友好協会の新しい会長になられた懐 忠民氏と水田理事長は、面会いたしました。前の李永金会長から、引き継がれ、今後も城西大学と親しい交流関係を継続したいとお話がありました。また、水田理事長へ大連対外友好協会の海外特別理事としてご協力いただきたいとのお願いがあり、快諾されたので、その場



東北財形大学夏春玉学長ご挨拶

で海外特別理事の詔書が授与されました。

【東北財形大学 夏春玉学長らと懇談】

水田宗子理事長を団長とする一行は、2016年5月24日に東北財形大学夏春玉学長らと会見しました。東北財形大学側は、夏学長の他に張軍濤教務部長、張語辞国際交流所長、方愛郷教授らが同席されました。

2015年の学術交流協定以来、城西大学現代政策学部、大学院への留学、また研修受け入れなど、年々交流が順調に進んでおります。今後、協定に基づき、両学で協議をしながら、経営・福祉・メディア・観光・人文・環境の領域における大学院生（I+1）、また、短大への受け入れなどの具体的なプログラムが討議されました。

ブルゴーニュ大学の副学長ウエグマン教授が来訪

日時…2016年5月27日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2016年5月27日に、ブルゴーニュ大学（ディジョン、フランス）の副学長、グレゴリ・ウエグマン教授が、異文化マネジメント分野での協力推進、新規共同プログラム、学生交流に関する意見交換に、本学を往訪されました。

ウエグマン先生の来学は、2015年12月2日のブルゴーニュ大学からのデレゲーション（Alex Frame 教授、Bernard Althem 教授、Benedicte Fortier 教授、Veronique Parisot 教授）に続いてのもので、本学の大学生・大学院生向けの新たな短期プログラムの立ち上げに加え、現在協議が行われているディジョン市と鶴ヶ島市の姉妹都市協定についての議論を深めました。

両大学間における一層の相互交流、新たな協働研究の開始が期待されています。



グレゴリ・ウエグマン副学長との集合写真

ポーランド・ウッチ大学から視察団4名が来訪

日時…2016年5月30日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2016年5月30日、本学の姉妹校であるポーランド・ウッチ大学から視察団4名、Ryszard Plaszczyk 先生（開発経済学部長、元大使）、Eugeniusz Kwiatkowski 先生（経済学

部長、元副学長）、Jan Krzyz先生（ウッチ大学元理事長）と Miron Wolnicki 先生（USA、Villanova 大学教授）が、交流推進のため本学を訪問されました。本学側の出席者紹介を行っ



たあと、これまでの取組み報告や今後の課題について、積極的な意見交換が行われました。

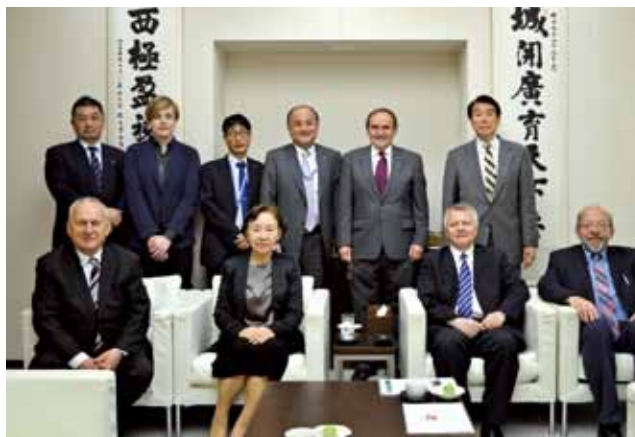
その後、東金キャンパスに出発、ウッチ大学を含むV4留学生に会い、具体的な留学の様子を視察、またJUIUの先生方がキャンパスツアーを行いました。

翌31日には、坂戸キャンパスを来訪、JUIUローズガーデンにてチェコ・プラハ経済大学からのバラの植樹式に参加されました。その後、JUIUに新しく来た留学生の歓迎会が行われ、V4、韓国、中国、ベトナム等から新しい学生たちと交流しました。その後、城西大学の薬学部の白衣式に参加され、親しく交流しました。壇上で白衣を着て、皆さんの門出をとお祝いいただきました。

ポーランドのウッチ大学と本学は2012年11月に大学間協定を結んでおり、交換留学、日本語教育や社会科学系等、学術交流が行われています。今回、城西の学生2名が、ウッチ大学が主催するサマープログラムに参加する予定です。

このような交流を通じ、両大学、そして日本と

ポーランドとの関係がより発展することが期待されます。



東京紀尾井町キャンパスにてミーティング

チェコ・プラハ経済大学から寄贈されたバラの植樹式を 坂戸キャンパスの「水田清子記念ローズガーデン」にて挙行

日時…2016年5月31日
場所…城西大学坂戸キャンパス



2016年5月31日、海外姉妹校のチェコ・プラハ経済大学から寄贈されたものなど3種のバラの植樹式が、城西大学坂戸キャンパス（埼玉県坂戸市）の「水田清子記念ローズガーデン」で行われました。植樹式には、同じく海外姉妹校で来日中のポーランド・ウッチ大学のクフィアトウコヴァスキ・エウゲニウシ経済学部長、リツ・ヤン元理事長

ら一行4人も参加しました。この日植樹されたのは、水田清子・元名管理理事長の名前を冠した新種のバラ「Seiko Mizuta」に加え、プラハ経済大学のハナ・マフコヴァー学長から贈られたチェコのバラ「ゲルス・アン・テプリッツ」、返礼として本学からマフコヴァー学長に贈呈した新種のバラ「ハナ・マフコヴァー」の3種。



植樹をするエウゲニューシユ経済学部長、水田理事長、木下高志埼玉県議（右から）

マフコヴァー学長は昨年11月、学校法人城西大学創立50周年記念の世界学長会議終了後に、城西国際大学の「J-I-Uローズガーデン」のオープニングセレモニーに出席されました。その折、ローズガーデンに感激され、今回の本学への寄贈となりました。「Seiko Mizuta」と「ハナ・マフコヴァー」は、バラ作りの名人と呼ばれる富吉利夫氏制作による新種で、いずれも国際はらコンクール新品種コンテストの入賞作です。

水田宗子理事長は挨拶で「短期大学30周年を記念して出来たこのローズガーデンに色々な国からバラを頂き、短大の皆さんや地域の方々がメンテナンスに力を入れてくださっています。将来は、ポーランドからもバラを頂けるのではないかと思います。これからも国際的なローズガーデンを皆様と守り、美しい花を咲かせていきたい」と述べました。その後、地元選出の県議会議員や同窓会代表、学生代表、留学生代表も加わって、それぞれのバラの幼木に土をかけました。

スウェーデンと連携している会社に30年勤め、2006年から2010年の間在日スウェーデン商工会議所の会長を歴任された方です。

講演に先立ち、水田理事長が「エクランド氏以外に日本とスウェーデンの関係について詳しく述べる事ができる人を想像できないと思います」と挨拶しました。エクランド氏は自分の経験に基づいて、日本とスウェーデンの間における、異文化とマネジメントの関係、スウェーデンの経営者の日本での成功の秘密、スウェーデンにとって日本から学習できること、そして最後に、日本人の学生が海外で挑戦することを応援するために何が必要かについて述べました。エクランド氏は講演をしながら学生や教員とアクティブに交渉も行い、自分の意見のポイントを紹介しました。

今後とも日本スウェーデン協会と連携しつつ、スウェーデン・アイリッシュカフェを継続的に開催してまいります。



留学生から花束の贈呈

第1回「スウェーデン・アイリッシュカフェ」を開催

日時：2016年6月7日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



2016年6月7日、学校法人城西大学は東京紀尾井町キャンパス3号棟の国際会議室で、Högans Japan K.K.の代表取締役社長である、カール・グスタフ・エクランド氏（Mr. Carl-Gustav Ekland）を招いて第1回「スウェーデン・アイリッシュカフェ」を開催しました。

日本とスウェーデンには深い文化的・経済的関係があり、その認識をさらに深めるため、学校法人城西大学理事長である水田宗子先生が日本スウェーデン協会会長を務めていることもあり、今回、スウェーデン・アイリッシュカフェ

を開催する運びとなりました。当日は一般社団法人スウェーデン社会研究所代表理事・所長鈴木賢志先生、一般社団法人スウェーデン社会研究所メンバーをはじめ、留学生や日本人学生、教職員ら約100人が参加し、エクランド氏の講演に耳を傾けました。

エクランド氏はヨーテボリ大学のビジネス・経済・法学部でビジネス、経営を学び、卒業した後、チャルマース工科大学でメカニカルエンジニアの修士課程を卒業。1980年に来日し、日本ポルボ株式会社代表取締役社長をはじめ、

第1回「アイリッシュカフェ」を開催

日時：2016年6月24日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



2016年6月24日、学校法人城西大学は東京紀尾井町キャンパス3号棟の国際会議室で、元神戸大学教授の風呂本武敏氏を招いて第1回「アイリッシュカフェ」を開催しました。

昨年3月、日本経団連名誉会長の米倉弘昌氏とアイルランド大使館のご支援を得て、本学とアイルランドのリムリック大学との交流がスタート。今年から両学による研修プログラムが始まっています。今回のアイリッシュカフェはそれを記念したものです。お越しいただいた米倉氏をはじめ、留学生や日本人学

生、教職員ら約120人が耳を傾けました。

風呂本氏は1958年、京都大学文学部卒。神戸大学や愛知学院大学の教授を歴任。国際アイルランド文学協会の日本支部会長もお務めになりました。著書に「見えないものを見る力」「半歩の文化論」などがあります。

講演に先立ち、水田宗子理事長が「風呂本先生は、大変ご高名な英文学者であり、アイルランド研究の第一人者です。本日の講演は私たちがアイルランド好きにさせてくれるのではないかと思います」と挨拶しました。



今泉清詞今泉記念ビルマ奨学会会長ミャンマー

との人材育成のため寄付金を城西大学へ贈呈

日時…2016年7月26日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2016年7月26日、今泉記念ビルマ奨学会会長今泉清詞会長一行が交流・人材育成推進のため、本学水田理事長を表敬訪問されました。

訪問の目的は、ミャンマーとの交流・人材育成の支援として、今泉記念ビルマ奨学会から、すでにミャンマーからの留学生を受け入れている学校法人城西大学に対し、一層の交流の発展への期待を込めて、多額の寄付金を水田理事長へ贈呈されました。

この「今泉記念ビルマ奨学会」は、今泉会

風呂本氏は「アイルランドからのメッセージ」と題した講演でアイルランドの歴史と日本のアイルランド研究の歩みを紹介した後、環状列石などの石文化、輪廻転生や変身譚などの思想に見られる日本文化との類似性にも言及しました。最後に、風呂本氏は北アイルランドとの紛争にも触れ、「紛争の中でよく言われたのが、『多様性を持った統一性』ということ。少数意見を尊重して多様な意見を持つことが自分たちのメリットになることにアイルランドは気がついた。これが、アイルランドが発している非常な大きなメッセージだと思う」と指摘。「コンパクトな人口と地域の中で、人々は延々と連なる文化を共有している。アイルランドはそういうサンプルを今日の我々にも提供している」と述べました。

質疑応答では、最近のアイルランド経済に関する学生の質問に、米倉氏がお答えになる場面もありました。



講演する風呂本氏

長が第二次世界大戦中、3年間ビルマ（現ミャンマー）で戦い、過酷な戦場から生きて帰られたのは自分たちの食べる物にも不自由する中で食べ物分け与え、助けてくれたビルマ人達のお蔭で、奨学会もその温情に対する恩返しであるとお考えのもと、将来建国に貢献するミャンマーの若い人材を育てる目的で、1989年埼玉原鶴ヶ島市に設立されたものです。

この奨学会からの支援を得て、これまで博士号取得者25名を含め187名の奨学生が卒業して、ミャンマー、日本、第三国などで、各専門分野で活躍、現在も、ミャンマー国内で300名を超える学生に奨学を授与、学校・図書室建設などミャンマーの教育・人材育成支援を行っているとのこと。

本学は、この今泉氏の志を大切に、今後もミャンマーの教育・人材育成に力を入れてまいります。



2016年度秋季入学式を挙行

日時…2016年9月13日
場所…城西国際大学千葉東金キャンパス

2016年9月13日、「2016年度秋季入学式」を城西国際大学千葉東金キャンパスの水田記念ホールで挙行了しました。

本学では春季の入学式・卒業式に加えて、主に外国人留学生を対象にした秋季の入学式・卒業式を挙行しています。

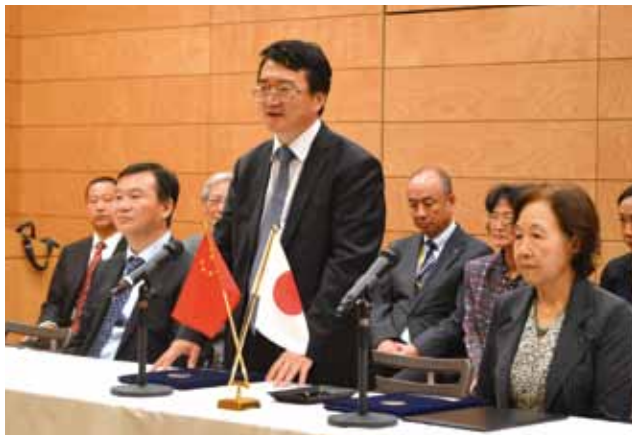
水田宗子理事長は、「異なる思想や文化を持つ人々が共生する世界では、多様性を尊重して活用することが必要です。皆さんには、将来はどうか城西国際大学の一員として社会の大きな変動に立ち向かい、そしてさらに日本と世界との関わりに深い理解を持つグローバルな人材に育ってほしいと願っています」と式辞を述べました。



世界各国の留学生とともに学生代表宣誓を述べる江 凱銘さん



寄付を贈呈する今泉会長



挨拶する程副学長



調印後の記念撮影

瀋陽薬科大学と学術交流協定を締結



日時..2016年9月26日
場所..学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2016年9月26日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで、中国の瀋陽薬科大学との学術交流協定書の調印式を執り行いました。城西大学と城西国際大学の薬学部の学生や教職員ら約100人が、調印式を見守りました。

瀋陽薬科大学は、学問、実験研究の方面において旧中国医科大学の伝統を多く引き継ぎ、中国で最初に創立された薬科大学で、日中の友好と教育の促進において大きな業績を残しています。これまで北里大学など日本の約30の大学と学術交流協定を締結しています。すでに、数名の瀋陽薬科大学の学生が本

今回は17か国・地域から入学生を迎え、各国を代表した新入生たちが登壇し、母国語であいさつを述べました。観光学部に入学した台湾出身の交換留学生・江凱銘さんは、「私

たち新入生一同は、建学の精神である『学問による人間形成』を尊重し、国際社会で活躍できる人材となることを誓います」と力強く宣誓しました。

学部の薬学研究科で学位を取得し、現在も2人の学生が大学院で学んでいます。

この日、来学したのは程卯生・副学長をはじめ、方亮・薬学院院长、蔡洪宇・国際交流処長の3人。方亮院長が城西大学の薬学部に留学していた縁などによって、今回の学術交流協定の締結につながりました。

挨拶で水田理事長は「方亮院長は城西大学の卒業生で、本学と瀋陽薬科大学は深い関係を持ち、教育を通じた深い連携をとってきました。今回の締結は、城西大学、城西国際大学の薬学部との交流、またその他の学部の交流にとっても、さらに新しい一歩

を踏み出す大変うれしいことだと思っています」と述べました。これに対し、程副学長は「盛大な調印式と熱烈な歓迎を用意していただきありがとうございます。今回の調印によって、(両学が) ウィンウィンの体制をつくれると思っています。さっそく学生の共同教育や共同研究を進めていきたい」と応えました。

出席者の紹介の後、水田理事長と程副学長が協定書にサインをして調印式を終えました。今回の学術交流協定締結によって、両大学の交流が大きく発展することが期待されます。

出版活動



『ドクトル・マハティールの知恵袋 平和への処方箋』 刊行

『篠田正浩 映画講義』 刊行

『大正デモクラシーの夢を摘んだメディア』 刊行

『ドクトル・マハティールの知恵袋 平和への処方箋』 刊行



水田三喜男記念グローバルレクチャーシリーズの第1回の講演者でもあるマハティール・マレーシア元首相の著書『Wit and Wisdom』の日本語翻訳版がいよいよ発売されることになった。22年に及ぶ首相在任中、そして辞めてからのマハティール元首相のさまざまな発言をまとめたもので、著者の平和への熱い思いが伝わる1冊。

書籍に関する情報や購入方法については、学校法人城西大学出版会Webサイト <http://www.josai.jp/impres/> をご覧下さい。

●周辺図



アクセス インフォメーション

- 東京メトロ有楽町線 麹町駅 1番出口より徒歩3分
- 東京メトロ半蔵門線・南北線 永田町駅9a番出口より徒歩5分
- 東京メトロ丸ノ内線・銀座線 赤坂見附駅D出口より徒歩8分
- JR中央線・総武線 四ツ谷駅より徒歩10分



「篠田正浩 映画講義」 刊行



国際的に人気の高い映画監督であり、城西国際大学客員教授でもある篠田正浩氏が、「城西国際大学メディア学部映像講座」で行った対談とインタビューを中心にまとめた本書は、日本文化への深い造詣、篠田映画と音楽の関係、映画作りの真髓など映画ファン

にはたいへん興味深い内容になっている。書籍に関する情報や購入方法については、学校法人城西大学出版会Webサイト <http://www.josai.jp/jpress/> をご覧ください。

『大正デモクラシーの夢を摘んだメディア』 刊行



本書は、大正デモクラシー華やかな1918年を挟んで起きた諸々の事件を再考、一時はデモクラシーを謳歌しながら、結局は戦争という大きなうねりに飲み込まれていくメディアの姿を、城西大学客員教授・鈴木健二先生が丹念に取材し、読みやすい物語風にまとめた。戦後70年の今、改めてメディアの役割を問いなおす。

書籍に関する情報や購入方法については、学校法人城西大学出版会Webサイト <http://www.josai.jp/jpress/> をご覧ください。

学校法人 城西大学



〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26 TEL.03 (6238) 1300

学校法人 城西大学 <http://www.josai.jp/>

城西大学 <http://www.josai.ac.jp/> 城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26

TEL 03 (6238) 1300 FAX 03 (6238) 1299